

古畳1万枚受け入れ

太陽光パネルも設置

加山興業

産廃の収集運搬や中間処理、建物解体などで実績を積み加山興業（名古屋市、加山順一郎社長、☎0533・89・0375）は、解体の増加を見越して、古畳を1万枚規模で大量受け入れ、RPFの原料とすることを明らかにした。3月には中間処理工場の屋根に46キロワット規模の太陽光パネルを設置、発電事業にも参入する。

同社は、消費税導入のため前倒して住宅建築が増えることが予測される本年、各公団や住宅解体で発生する古畳の増加に着目。RPF生産のための原料として古畳が使用できる

中でもマテリアルリサイクルが困難な古紙や廃プラなどを主原料とし、適切に選別・破碎し、成型加工して精製する循環型環境保全工ネルギータイプの施設だ。

同社は、木造家屋や鉄筋・鉄骨建物などさまざまな建物の解体工事を行う。解体工事から発生する廃棄物は、可能な限り資源としてリサイクルしている。アスベストも適切に処理し、安全や環境面で配慮している。

最近では、工場などから排出される合成ゴムの端材を破碎、分級して人工芝のクッション材にするチップ化製造事業を豊川営業所（愛知県豊川市）で開始。手薄になっていたマテリアルリサイクル分野を確立した。原料となる廃タイヤは、工場から排出される合成ゴムのほか、中間処理施設で3〜5割に破碎されたものを有価で買い取る。

ことか
ら、受け
入れを強
化した。
RPF
は、1時
間3トの
生産能力
を持つ。
廃棄物の

RPFの原料となる
古畳

